

水道施設工事各種基準

令和7年4月

松山市公営企業局

完成図作成基準・ ・ ・ ・ ・ 1

断水伺書作成基準・ ・ ・ ・ ・ 1 9

水道用弁栓柵施工基準・ ・ ・ ・ ・ 2 9

完成図作成基準

本基準は、本仕様書が適用される工事の内、配管及び付属構造物（仕切弁、空気弁及び排水設備等）の工事に係る完成図の作成基準を定めるものである。但し、配管及び付属構造物の含まれない工事についても準用のうえ、当該工事の設計図面等に倣って作成する。また、受発注者間での見解の相違は、発注者の解釈に従うものとする。

1 内容

（１）共通事項

作成する図面に使用する記号は資料 1 を基本とし、地形を含む場合は方位を記載する。

（２）完成図

詳細について、ア～キは資料 2～7、クは資料 8・9 に倣う。

ア 目次図（資料 2 参照）

電子ファイルに登録された完成図を容易に検索できるよう、図面枚数が 10 枚以上の工事に関しては、目次図を作成する。但し、給水管路図は対象外とする。また、作成内容は、図面番号、図面名称及び縮尺とする。

イ 工事概要（資料 2 参照）

受注者、着手・完成年月日、工事監督者、材料メーカー名（管）、道路占用許可番号（国道、県道、市道他）、河川占用許可番号（国、県、市他）、管種・口径・継手別布設（替）延長、制水弁設置箇所（口径・設置及び取替数等）、消火栓設置箇所（口径・設置及び取替数・形式等）、空気弁設置箇所（口径・設置及び取替数・形式等）、排水設備設置箇所（口径・設置及び取替数・形式等）、給水管取替箇所（口径・取替数）、既設管撤去工延長（管種・口径別）、セメントミルク注入工延長（管種・口径別）、備考を記載する。なお、備考欄には、材料メーカー名（弁）、各種規格、撤去弁栓番号、補足事項及びその他事項を記載する。

ウ 位置図（縮尺：1/2,500）（資料 2 参照）

（ア）地形

都市情報システムから出力した地形図（縮尺：1/2,500）を基図とする。この際、施工範囲及び周辺の目標物が納まるよう出力範囲を設定し、上水道管理図番号を枠外に記載する。

(イ) 管路及び弁栓類

資料 1 の表示記号（位置図・平面図用）を用いて作図する。この際、布設（替）路線は既設路線よりも太い線で作図し、判別可能とすること。

(ウ) 旗揚げ

口径・管種・継手・塗装・工種ごとに布設（替）延長を旗揚げする。また、詳細図を作成している箇所は、円等でその範囲を示し、詳細図番号を旗揚げする。

エ 平面図（縮尺：1/500）（資料 3 参照）

(ア) 地形

都市情報システムから出力した地形図（縮尺：1/500）を基図とする。補正が必要な場合は、「国土交通省公共測量作業規程」に基づき、縮尺 1/500 で平板測量を行い作図する。この際、施工範囲及び周辺の家屋が納まるよう出力範囲を設定し、四方に座標値を記載する。

(イ) 管路及び弁栓類

資料 1 の表示記号（位置図・平面図用）を用いて作図する。この際、布設（替）路線は既設路線よりも太い線で作図し、判別可能とすること。また、撤去路線及びセメントミルク注入路線も既設管と同様に作図する。

(ウ) 測点

原則として路面延長 20m～40m 間隔で記載する。

(エ) 旗揚げ

口径・管種・継手・塗装・工種・道路管理者・舗装種別・既設管連絡箇所・代表土被りごとに布設（替）延長を旗揚げする。既設管撤去工及びセメントミルク注入工延長も同様とする。また、詳細図を作成している箇所は、円等でその範囲を示し、詳細図番号及び図面参照番号（例：図番 8/10 参照）を旗揚げする。その他、既設管撤去工及びセメントミルク注入工等で管末処理を行った箇所についても、工種が分かるように旗揚げすること。

オ 縦断面図（縮尺：縦 1/100、横 1/500）（資料 4 参照）

縦断面図は、布設（替）路線が基幹管路（導水管、送水管及び配水本管（ $\phi 300\text{mm}$ 以上））の場合のみ作成する。

地形の縦断面図に、管及び構造物等の縦断状態、その他埋設物の状態及び基準面の高さ（KBM）を作図する。また、管径・管種、土被り、管天高、地盤高、追加距離及び単距離等を、測点及びオフセット点ごとに記載すること。

カ 横断面図（縮尺：1/100）（資料 5 参照）

（ア）道路

「建設省公共測量作業規程」に基づき作図する。作図範囲は原則、測点中心から両側道路界及び家屋の一部を含めた範囲とする。

（イ）埋設物

断面内の埋設物すべてを、わかる範囲で作図する。布設（替）管については、口径、管種、継手、土被り及び道路界からの寸法を旗揚げすること。他の埋設物についても、用途及び口径等をわかる範囲で旗揚げすること。

キ 配管系統図（縮尺：NONSCALE）（資料 6 参照）

資料 1 の表示記号を用いて、既設管を含め作図する（但し、既設管は細線で簡易に作図）。この際、直管を除く材料については、現況が分かるように、情報を簡易に記載すること。また、口径・管種・継手・工種・既設管連絡箇所・オフセット点間ごとに布設（替）延長を旗揚げし、測点を記載すること。

ク 詳細図（縮尺：1/100）（資料 7 参照）

異形管の曲点及び交点等のオフセット点を要する箇所について作図する。

（ア）地形

「国土交通省公共測量作業規程」に基づき、縮尺 1/100 で平板測量を行い作図する。この際、オフセット点周辺の家屋が納まるよう範囲を設定すること。

（イ）管路及び弁栓類

資料 1 の表示記号を用いて、既設管を含め作図する（但し、既設管は細線で簡易に作図）。

（ウ）オフセット寸法

基点とオフセット点間の寸法を記載する。なお、基点は極力不動であることを条件とし、オフセット点 1 点に対し 3 点の設定を原則とする。

（エ）詳細断面

管及び構造物等の縦断状態及びその他埋設物の状態を、表示記号を用いて作図する。また、土被り、他の埋設物の用途及び口径等を旗揚げすること。

（オ）旗揚げ

弁栓番号及び管末処理の工種を旗揚げする。

(カ) 属性情報

詳細図に弁栓類を含む場合は、所在地、項番、図番及び弁番号、種類（形式）、口径、筐・柵形式及び用途（仕切・締切・排水）を記載する。

ケ 給水管路図（資料 8・9 参照）

平面図、オフセット図及び材料系統図の方位は揃える。また、給水管の親番号・代表番号の確認は確実に行うこと。

(ア) 工種及び年月日

工種は改良、撤去及び他から選択する。また、年月日は工事完成日とすること。

(イ) 位置図（縮尺：NONSCALE）

都市情報システムから出力した地形図（縮尺：1/2,500）を基図とする。また、工事場所（住所）を記載し、配水管からの分岐箇所及び給水家屋を旗揚げ及び着色等することで、施工箇所を明確に示すこと。

(ウ) 平面図（縮尺：NONSCALE）

都市情報システムから出力した地形図（縮尺：1/500）を基図とする。この際、配水管からの分岐箇所及び給水家屋が納まるよう出力範囲を設定すること。また、上水道管理図番号、お客様番号及び使用者名を記載し、給水管の布設状況がわかるよう作図すること。

(エ) オフセット図（縮尺：NONSCALE）

配水管からの分岐箇所及び量水器の中心をオフセット点とし、基点とオフセット点間の寸法を記載する。なお、基点は極力不動であることを条件とし、オフセット 1 点に対し 3 点の設定を原則とする。但し、量水器は、目視可能な位置にある場合、基点を 2 点とすることができる。その他、お客様番号及び使用者名を記載すること。また、誤穿孔等を防止するため、配水管からの分岐箇所周辺の埋設物を可能な範囲で作図する。

(オ) 材料系統図

配水管からの分岐箇所から量水器までの使用材料がわかるよう、資料 1 の表示記号を用いて立体的に作図する（廃止の場合は、「廃止」と記載すること）。この際、簡易な使用材料の情報を記載すること（分岐の記号は下表を参照）。また、変化点ごとに布設延長及び曲率を旗揚げし、立ち上がり及び立ち下がりがある場合は、高さ寸法 H も記載すること。

割丁字管	SF 型	SS 型	サドル分水栓	
鋳鉄用	D.SF	D.SS	鋳鉄用	D
ビニール用	V.SF	V.SS	ビニール用	V
			ポリエチレン用	P

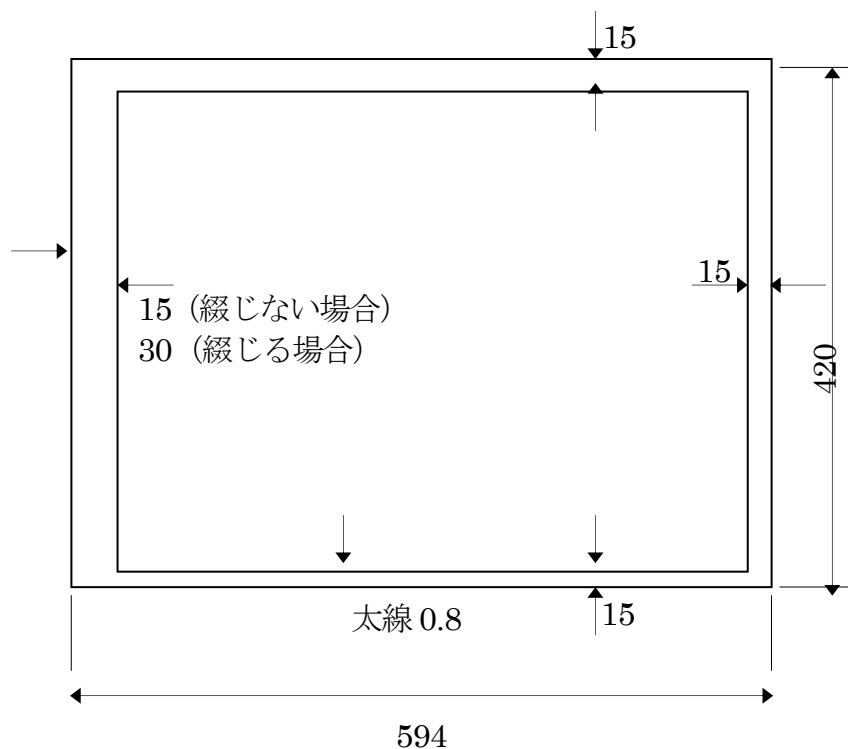
(カ) その他

工事名、年月日（工事完成日）、工種（改良・撤去・他）、担当者（工事監督者）、社名（受注者）、給水装置工事主任技術者、使用者名・承諾書有無、お客様番号、許可番号（各占用許可）、宅地内未施行の理由及び土工（掘削長、掘削幅、掘削土被、分岐箇所土被）を記載する。

但し、メータユニットを設置した場合及びすでに設置されていた場合は記載しない。

2 様式

1の(2)のア〜クは下図様式(単位 mm)とし、ケの様式は資料 10 とする。



太線 0.8				完成図	
細線 0.2				図番	
名 称	(工事名)			No.	
	(図名) 例：位置図・工事概要			計	
縮 尺	S=1:2500	製図年月	年 月		
松山市公営企業局 (課名) 課					

15 32 25 23 19

114

6.5 6.5 5 18 9 10

52

3 提出部数

種別	対象	サイズ	用紙	部数
原図	1の(2)のア〜ク	A2	マイラー紙 ^(注1)	1部
複写1	1の(2)のア〜ク	A2	上質紙	1部
複写2	1の(2)のイ・ウ	A3(縮小版)	上質紙	1部
給水管路図	1の(2)のケ	A4	上質紙	2部

注1 マイラー紙は、マット加工されたものを用いること。

1. 表示記号

(1) 管 種

名 称		記 号		
管径 (mm)		φ		
材 質	ダクタイル鋳鉄管	D I P		
	硬質塩化ビニル管	VP		
	石綿管	ACP		
	鋼管	SP		
	塩ビライニング鋼管	SGP-VB		
	ホリソノ粉体ライニング鋼管	SGP-PB		
	ステンレス鋼管	SUS		
	ポリエチレン管	PE		
	水道配水用ホリソノ管	HPPE		
継 手	柔継手	K形	K	
		T形	T	
		U形	U	
	剛継手	KF形	K F	
		UF形	U F	
		フランジ	F	
	耐震継手	S形	S	
		SⅡ形	SⅡ	
		US形	US	
		NS形	NS	
		GX形	GX	
接 合 部 品	GX	ライナ		
		G-Link		
		P-Link		
	K	普通押輪		
		特殊押輪3DKN		
		特殊押輪半数型		
		VCジョイント		

(2) 鋳鉄異形管ほか記号 (参考)

名称	記 号
曲管	
二受T字管	
ワッパ付T字管	
渦巻き式ワッパ T字管	
片落管	
乙字管	
継輪	
鋼管、ビニル管、等の管記号	
割T字管	
サドル分水栓	
チーズ	
エルボ	
バンド	

(2) 水道配水用ポリエチレン管異形管記号 (参考)

名 称	記 号
直管	—
EF受口付直管	┐—
EFソケット	二
EFレデューサ	┐>C
EF片受レデューサ	┐>
レデューサ	→>
EFチーズ	┐┐C
EF片受チーズ	┐┐
SPチーズ	┐
EFバンド	┐>C
EF片受バンド	┐>
EF Sバンド	┐>C
EF片受バンド	┐>
挿し口付ソフトシール弁	→X←
片受ソフトシール弁	┐X←
EFキャップ	┐
SPキャップ	コ
EFフランジ	┐H

名 称	記 号
メカ継手ソケット (HPPE×HPPE)	DCI
メカ継手片落ちソケット (HPPE×HPPE)	D>CI
メカ継手ソケット (DIP×HPPE)	D>CI
メカ継手ソケット (HPPE×VP)	DX
メカ継手チーズ	D┐C
メカ継手バンド	D>C D>C
メカ継手キャップ	D
メカ継手フランジ付チーズ 台付	D┐C
メカ継手フランジ付チーズ 渦巻き式台付	D┐C
メカ継手フランジ付バンド 台付	D┐I
メカ継手ソフトシール弁	D→X←D
メカ継手短管1号	DH
メカ継手短管1号片落ち	D>H

2. 表示記号（位置図・平面図用）

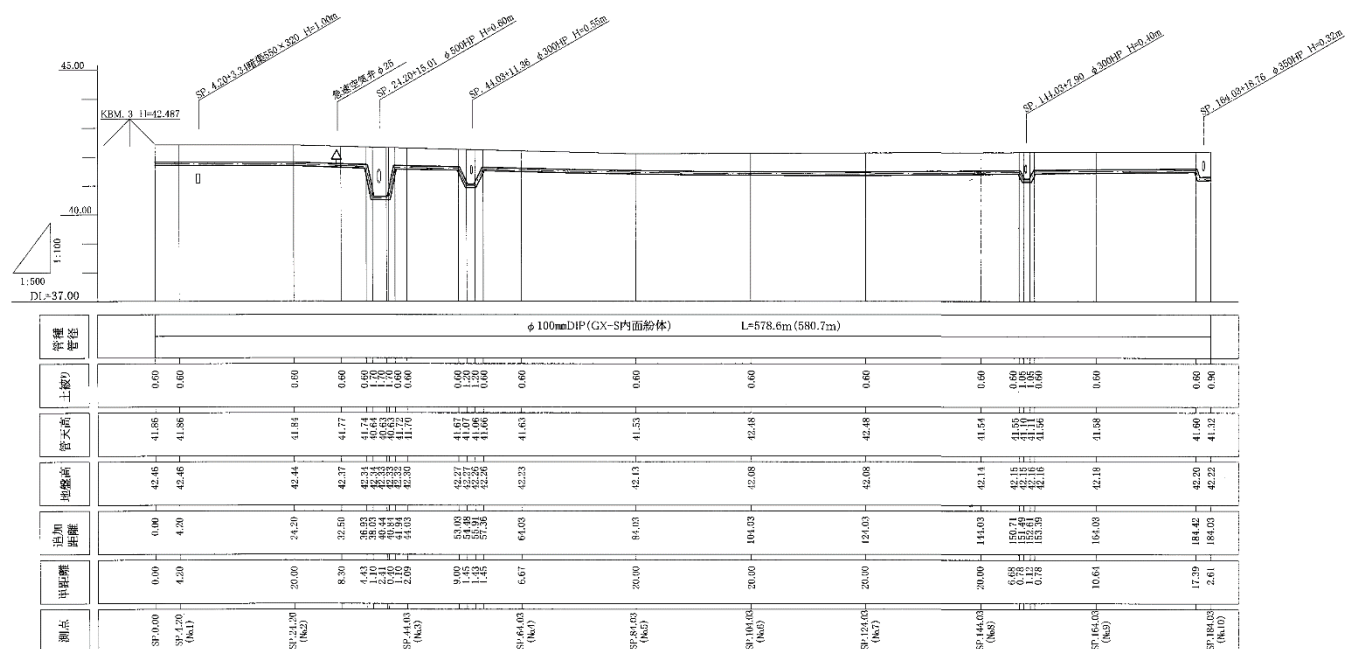
（1）管口径記号

名 称	記 号
φ13	_____
φ20	_____ ● _____
φ25	_____ ● ● _____
φ30	_____ ● ● ● _____
φ40	_____ ● ● ● ● _____
φ50	_____
φ65	_____
φ75	_____ - _____
φ100	_____ - - - _____
φ125	_____ + _____
φ150	_____ - - - - - _____
φ200	_____ - - - - - - - _____
φ250	_____ 〈 - 〉 _____
φ300	_____ 〈 + 〉 _____
φ350	_____ 〈 - - 〉 _____
φ400	_____ 〈 + + 〉 _____
φ450	_____ 〈 - - - 〉 _____
φ500	_____ 〈 + + + 〉 _____
φ600	_____ 〈 ○ 〉 _____
φ700	_____ 〈 ○ ○ 〉 _____
φ800	_____ 〈 ○ ○ ○ 〉 _____
φ900	_____ 〈 × 〉 _____
φ1000	_____ 〈 × × 〉 _____
φ1100	_____ 〈 × × × 〉 _____
φ1200	_____ 〈 × × × × 〉 _____
φ1350	_____ 〈 1350 〉 _____
φ1500	_____ 〈 1500 〉 _____

（2）弁栓その他記号

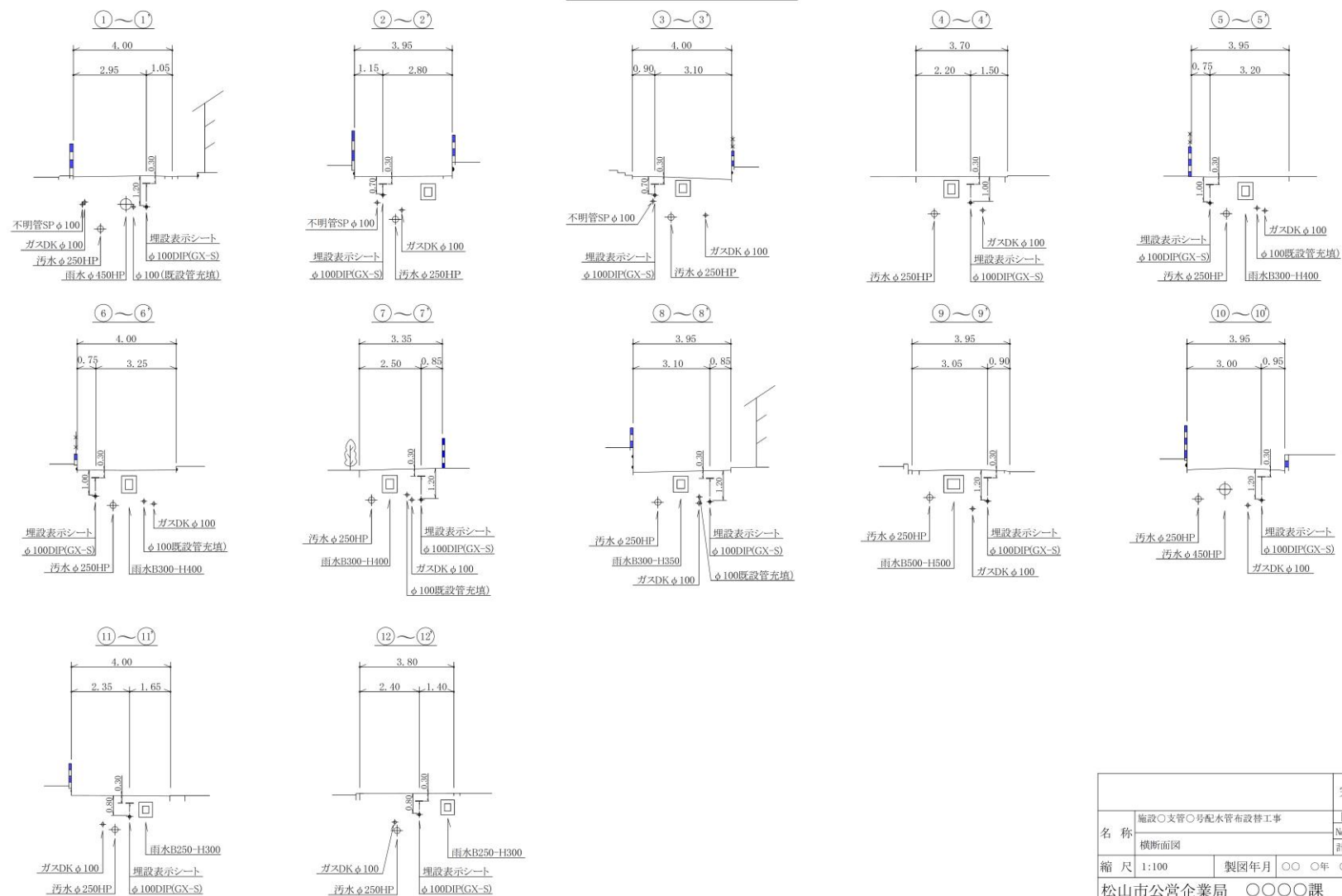
名 称	記 号
仕切弁（締め切り）	● ●
新設仕切弁	--- ---
単口消火栓	○
双口消火栓	◎
単口空気弁	△ ↑
双口空気弁	△ ↑
空気弁付消火栓	◎ △
消火栓付空気弁	△ ◎
排水設備	● →
口径区分（本管）	→▷←
口径区分（給水）	→▶←
管種区分	—+—
管末	—
量水器	⊗ ⊗
量水器（メータエイト）	⊠ ⊠
止水栓・弁	--×--
防火水槽	⊙ 水
排水栓	● ■

縦断面図 (1) H=1:500 V=1:100



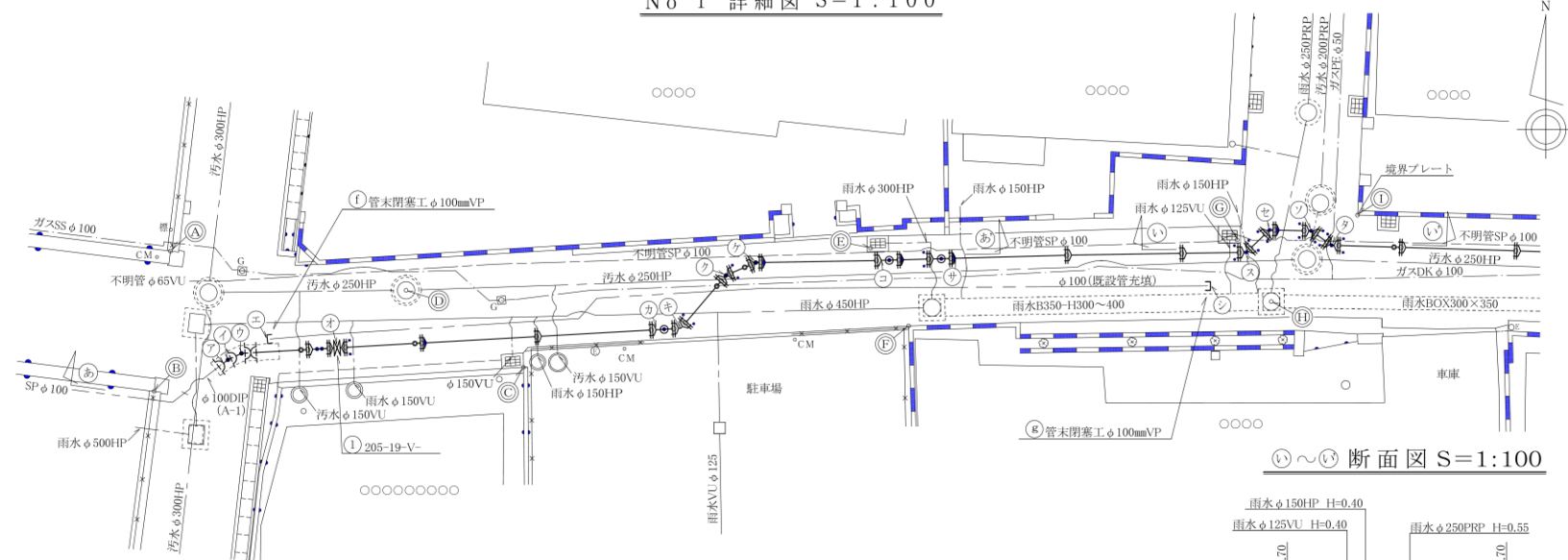
完成図	
名 称	縦断面図(1)
縮 尺	H=1:500 V=1:100
製 図 年 月	
松山市公営企業局	

横断面図 S=1:100

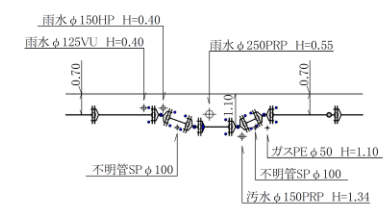


		完成図
名 称	施設○支管○号配水管布設工事	図 番
	横断面図	No. ○ 計 ○
縮 尺	1:100	製図年月 ○○ ○年 ○月
松山市公営企業局 ○○○課		

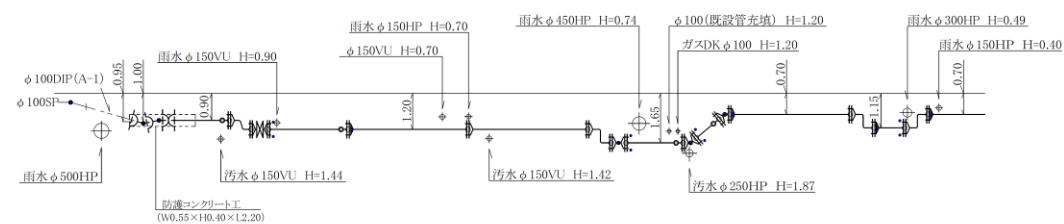
No 1 詳細図 S=1:100



①～⑩ 断面図 S=1:100



⑪～⑫ 断面図 S=1:100



弁栓類オフセット

所在地 松山市〇〇町〇-〇					
弁			空気弁		
項番	図番及び弁番号	種類	口径	設置位置	用途
①	***-V-	アブソーバ (二重)	φ100	レジン製	仕切

オフセット表									
基点	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I)
⑦	4.31	2.63	10.45	—	—	—	—	—	—
⑧	4.27	2.83	10.29	—	—	—	—	—	—
⑨	4.38	3.35	9.81	—	—	—	—	—	—
⑩	4.57	4.35	8.98	—	—	—	—	—	—
⑪	6.74	6.59	6.49	—	—	—	—	—	—
⑫	—	—	—	8.78	7.96	8.79	—	—	—
⑬	—	—	—	9.62	7.15	7.93	—	—	—
⑭	—	—	—	11.10	5.11	6.60	—	—	—
⑮	—	—	—	12.16	4.01	5.78	—	—	—
⑯	—	—	—	0.60	2.46	12.38	—	—	—
⑰	—	—	—	—	3.01	2.87	9.79	—	—
⑱	—	—	—	—	10.57	1.86	2.18	—	—
⑲	—	—	—	—	—	0.55			

給水管路図 【 改良 ・ 撤去 ・ 他 】				平成 年 月 日	
位置図	N ↑ +	材料系統図(NON SCALE)	お客様番号 (6桁)		
都市情報システムから出力した地図図面を使用して給水地・施工箇所を摸写する。		注意事項…使用材料記号・名前・長さ・口径(本管・分岐)・管路の高低等必要な情報を記入する。			
平面図(NON SCALE)(図番 -)	N ↑ +	掘削長 L= m	掘削幅 W= m		
		掘削土被 H= m	分岐箇所 W= m		
		オフセット図(Nonscale)			
		N ↑ +			
注意事項…完成図の平面図を使用して、お客様番号・分岐箇所を明記する。 給水管の全量(分岐メーターも含む)が見やすい大きさを使用する。		注意事項…分岐・止水弁栓のオフセット・ヨリ幅・(メーターボックスの位置)・その他 埋設情報を記載する。オフセットの目標物は、境界等不動のものを使用する。			
宅地内未施工の理由 (企業局 ・ 所有者等) の都合により宅地内の施工(メータユニットを含む。)ができませんでした。 1 (水路 ・ 階段 ・ 下水樹 ・ タイル ・ 浄化槽 ・ 石垣 ・ 庭木) が支障となり(施工不可能 ・ 承諾がもらえなかった)。 2 (工事の理解が得られず ・ メーター移設の ・ 所有者の所在が不明で) 承諾がもらえなかった。 3 その他 ()					
工事名			給水装置工事 主任技術者	担当者	
社名		使用者名 承諾書有無	有 無	許可番号	

断水伺書作成基準

- ③ 操作弁管理表・・・弁の操作履歴（弁番号・開閉状況）を記録するため、弁操作管理表の下
の注意事項にしたがって記入する。【様式2】
- ④ 上水道管理図（1/5000,1/2500）・・・水の系統や操作弁栓及び断水の影響（水圧、水量、使
用不能消火栓）等を確認するため、下記の「注意事項・表示方法（ア～カ）」にしたがっ
て作成する。
- ⑤ 上水道管理図（S=1/1000）・・・断水管路、断水家屋及び給水管等の詳細情報を確認するた
め、下記の「注意事項・表示方法（ア～キ）」にしたがって作成する。

【注意事項】

- ・ 弁栓番号やお客様番号が読み取れるものであること。
- ・ 縮小すると文字が不鮮明になるため、既定の縮尺で作成すること。
- ・ 配水（調整）区域線の近接で断水する場合は、区域線が変更になっていないか監督員へ確
認をすること。

【表示方法】

表示方法は次のとおりで、着色に際しては、元の図形、文字情報が見えるよう半透明色
（蛍光マーカーなど）で着色すること。（図1 表示例参照）

ア 施工箇所を表示

施工箇所を赤色の×印で示し、引き出し線で「施工箇所」を記入する。

イ 断水操作弁を表示

操作弁を緑色の●印で着色する。

ウ 断水管路を表示

断水管路を桃色で着色する。

エ 充水管路を表示

断水区域外の水系統の管網が確認できるよう周辺管路を青色で着色する。

オ 配水（調整）区域線の表示

区域線を黄色で着色する。

カ 締切弁を表示

締切弁を赤色の●印で着色する。

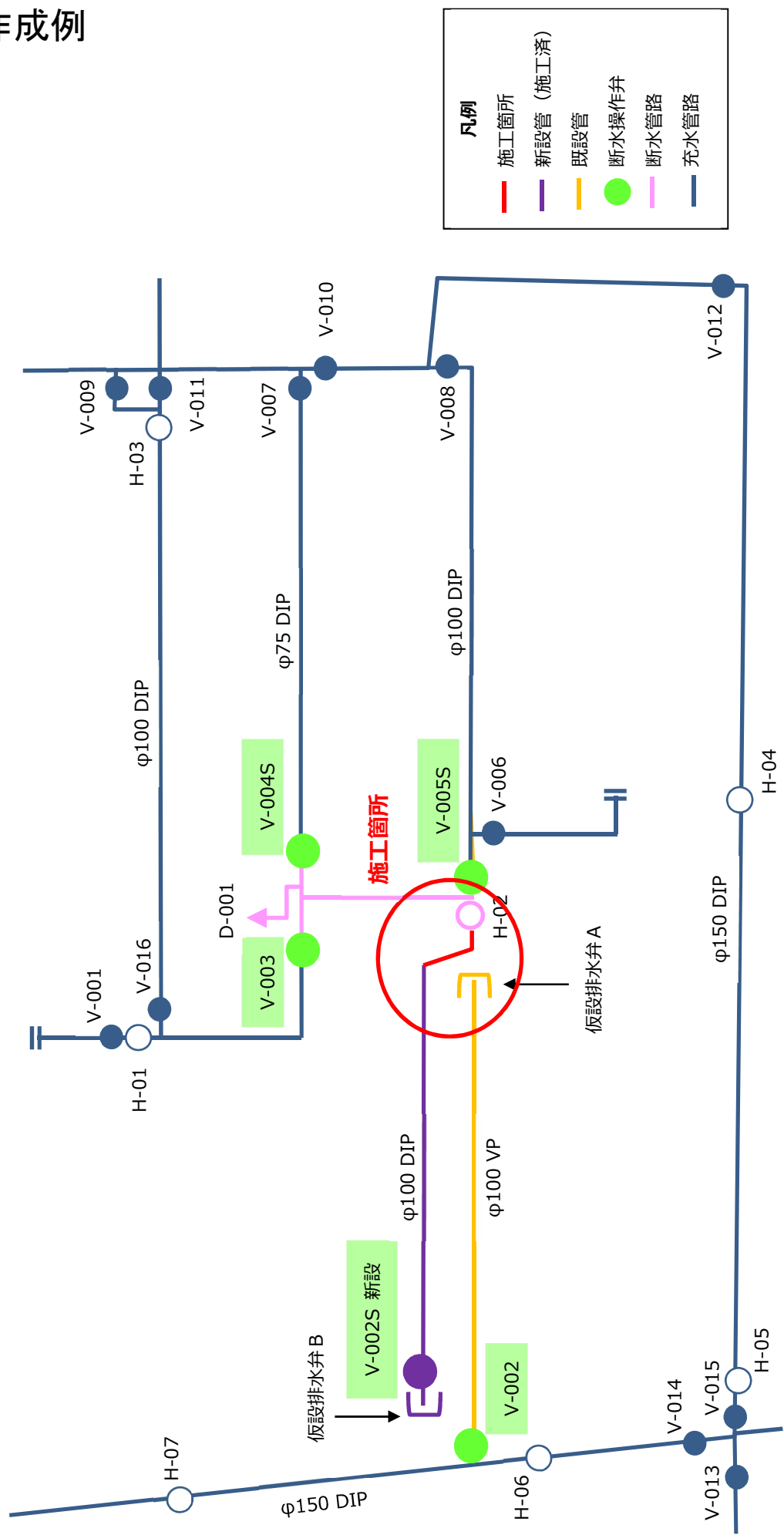
キ 断水家屋の表示

断水家屋を橙色の線で囲む又は■印で着色する。

図2 作成例

模 式 図

管理図番号 1 2 3 - 4 5



断 水 伺 書

No	/
----	---

主 管 課	課 長		起 案 者
合 議 課	センター長		
合 議 課			

断 水 日 時	自 令和 年 月 日 () 時 分 から		
	至 令和 年 月 日 () 時 分 まで		
断 水 区 域	松山市		
市 街 地 図	P. — —		
件 名 及 び 目 的			
断 水 戸 数 (量水器数)	約 戸程度		
使用不能消火栓	— H — 計 カ所		
配水(調整)区域	()		
放 流 水 量	$\text{m}^3/\text{h} \times \text{h} = \text{計} \text{m}^3$		
凡 例	×(赤)施工箇所 ●(緑)断水操作弁 ■(橙)断水家屋 ■(桃)断水管路 ■(青)充水管路 ■(黄)配水(調整)区域線 ●(赤)締切弁		
執行グループ名	担当 TEL —	局 担 当 者	携帯 — —
請 負 業 者	TEL —	現 場 責 任 者	携帯 — —
水 圧 調 整	有 ・ 無	監視所不能箇所	有 ・ 無
管 網 解 析 確 認	有 ・ 無		

操 作 弁 管 理 表

	弁 番 号	着 手 時 ・ 開 閉 状 況				摘 要
		配水区	開	閉	締切	
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

1. 当操作弁管理表は、弁の操作履歴の記録として使用するため正確に作成すること。
2. 予め操作不能弁の有無を監督員に確認し、断水計画に反映すること。
3. 弁の操作後は、原則元の状態に戻すこと。弁の故障や開状態であるべき弁が閉状態になっている（逆もある）場合は、速やかに監督員を通じて水道管路管理センターに連絡すること。連絡が取れない場合は元の状態とし、翌日速やかに連絡すること。
4. 仮設弁、新設弁については、元の弁番号を使用し、摘要欄に「仮設弁」「新設弁」と明示すること。
増設（仮設）弁に関しては、弁番号を任意に設定し、摘要欄に「増設（仮設）弁」と明示すること。
5. 洗管に使用する排水弁及び消火栓も記入し、仮設の場合は摘要欄に明示すること。
6. 締切弁は両方の配水区を記入すること。
7. 工事期間内において、仮締切とする弁は摘要欄に期間等必要事項を記入すること。
8. 計画が変更になる場合は、監督員を通じて速やかに水道管路管理センターに連絡すること。

【参考】 仕切弁スピンドル回転数

	ソフトシール弁	仕 切 弁
φ 7 5	1 3 回	1 3 回
φ 1 0 0	1 7 回	1 5 回
φ 1 5 0	1 9 回	1 9 回
φ 2 0 0	2 5 回	2 5 回
φ 2 5 0	2 5 回	2 6 回
φ 3 0 0	3 0 回	3 1 回
φ 3 5 0	3 5 回	3 6 回
φ 4 0 0	3 7 回	3 7 回
φ 4 5 0	4 2 回	4 2 回

(2) 更新検査

更新検査は、原則として当局が検査日、検査場所をあらかじめ決定し、11-3 にて年 1 回行うものとする。ただし、当局が不必要と認めた場合は、これを省略することがある。また、既納入分といえども、その必要がある場合には臨時に検査を行うことがある。

(3) 検査要領

検査は、当該仕様書に基づき製作された製品から、当局検査員指示のもとに 3 組を準備し、そのうちの一組について行う。

検査は、当局検査員立会のもと、以下の項目について 11. によって行い、5. ～10. の規格に適合しなければならない。

- (a) 構造、形状及び寸法検査
- (b) 材料検査（引張、伸び、硬さ、黒煙球状化率）
- (c) 表示検査
- (d) 外観検査
- (e) 性能検査（荷重たわみ性、耐荷重性、開閉操作性）

なお、検査に供する製品及び検査費用については、製造業者の負担とする。

(4) 再検査

(3) の検査のいずれかの項目において、規格値を満足しない場合は、その項目について再検査を行う。

再検査に用いる供試体は、材料検査については、予備に鋳造した残り 2 個を、製品については準備した残り 2 個組を用いる。

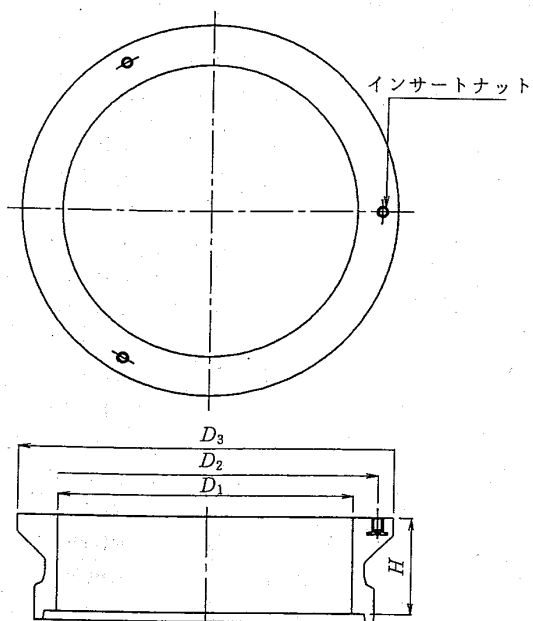
なお、再検査は、残り 2 個又は 2 組ともに規格値を満足した場合のみ合格とする。

12. 表示

蓋の裏面には、次の事項を鋳出し、又は容易に消えない方法で表示しなければならない。

- (1) 材料記号（FCD700 など）
- (2) 製造年又はその略号
- (3) 製造業者名又はその略号

付表 2 円形上部壁の主要寸法

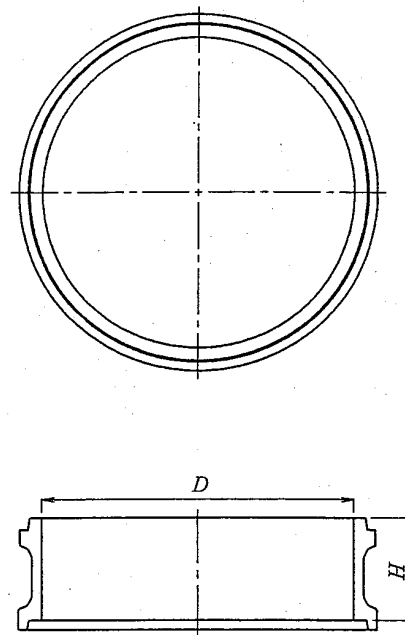


単位mm

種 類	部材記号	D ₁		D ₂		D ₃		H	
		寸法	許容差	寸法	許容差	寸法	許容差	寸法	許容差
1号	RB25(A)	250	±3	310	±3	360	±3	150	±5
3号	RB50(A)	500		600		664			
4号	RB60(A)	600	±4	700	±4	764	±4	200	
5号	RB70(A)	700		800		864			

備考 上面に埋め込むインサートナットは、1号 JIS B 0205 に規定する M10 以上、3～6 号が M16 を標準とする。

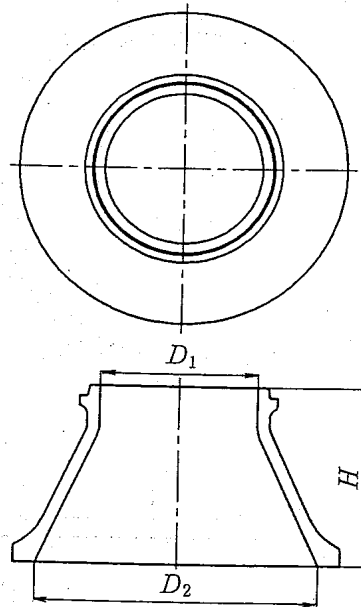
付表 3 円形中部壁の主要寸法



単位mm

種 類	部材記号	D		H	
		寸 法	許容差	寸 法	許容差
1号	RB25(B)	250	± 3	100	± 5
				200	
				300	
3号	RB50(B)	500	± 3	100	
				200	
				300	
4号	RB60(B)	600	± 4	100	
				200	
				300	
5号	RB70(B)	700	± 4	100	
				200	
				300	

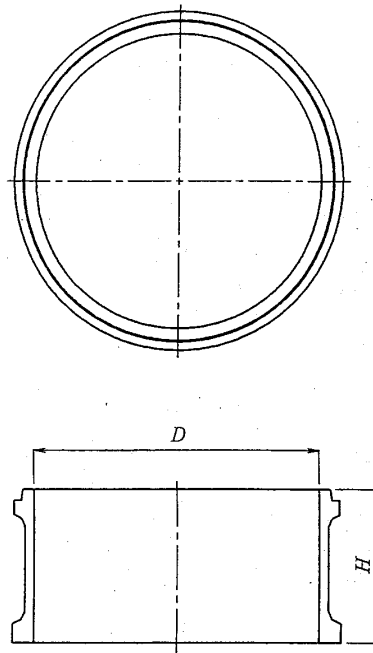
付表 4 円形下部壁(1, 2号)の主要寸法



単位mm

種 類	部材記号	D_1		D_2		H	
		寸法	許容差	寸法	許容差	寸法	許容差
1号	RB25(C)	250	± 3	350	± 3	300	± 5

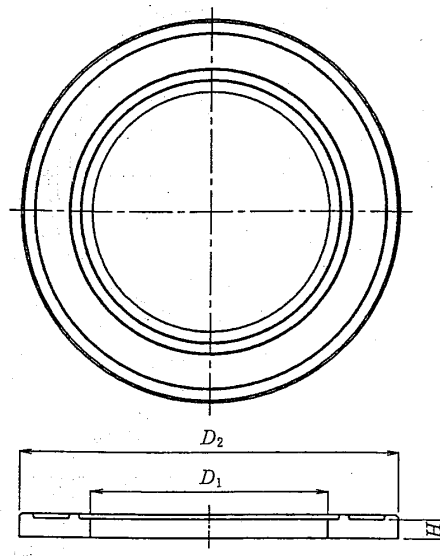
付表 5 円形下部壁(3～6号)の主要寸法



単位:mm

種 類	部材番号	D		H		
		寸 法	許容差	寸 法	許容差	
3 号	RB50(C)	500	±3	300	±5	
				500		
4 号	RB60(C)	600	±4	300		
				500		
5 号	RB70(C)	700		300		
				500		

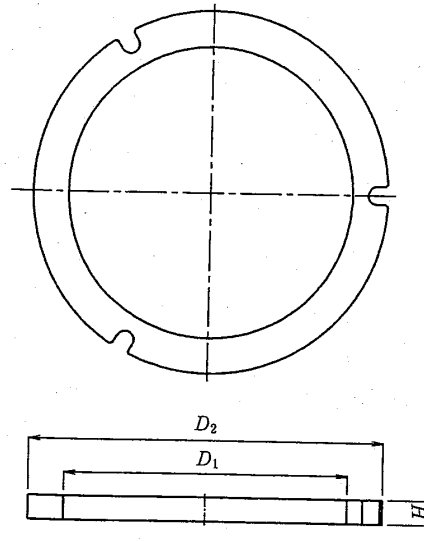
付表 6 円形底版の主要寸法



単位mm

種 類	部材記号	D ₁		D ₂		H			
		寸法	許容差	寸法	許容差	寸法	許容差		
1号	RB25(P)	350	±3	550	±3	40	±5		
3号	RB50(P)	400	±4	700	±4				
4号	RB60(P)	500		800					
5号	RB70(P)	600		900					

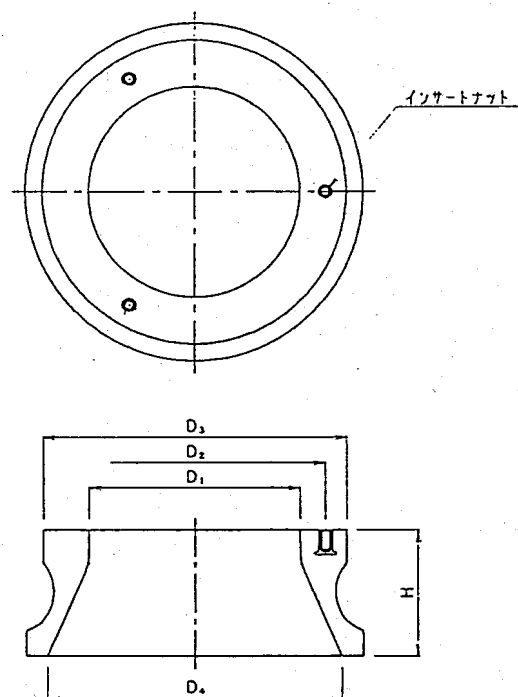
付表 7 円形調整リングの主要寸法



単位mm

種 類	部材記号	D ₁		D ₂		H			
		寸法	許容差	寸法	許容差	寸法	許容差		
1号	RB25(K)	250	±3	360	±3	50	±5		
3号	RB50(K)	500		660	±4				
4号	RB60(K)	600	±4	760					
5号	RB70(K)	700		860					

付表 8 円形下部壁(1,2号(CA))の主要寸法

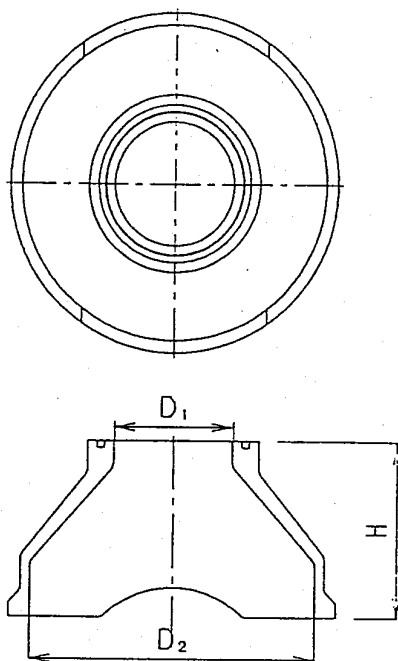


単位mm

種 類	部材記号	D ₁		D ₂		H	
		寸法	許容差	寸法	許容差	寸法	許容差
1号	RB25(CA)	250	±3	310	±3	150	±5
		D ₃		D ₄			
		寸法	許容差	寸法	許容差		
		360	±3	350	±3	300	

備考 上面に埋め込むインサートナットは、1号 J I S B 0205 に規定するM10、2号がM12を標準とする。

付表 15 分割底版型円形下部壁(1,2号(CATK))の主要寸法

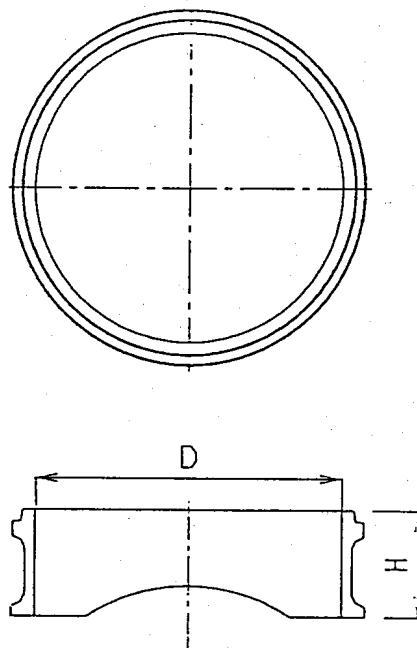


単位mm

種 類	部材記号	D ₁		D ₂		H(参考)	
		寸法	許容差	寸法	許容差	寸法	許容差
1号	RB25(CATK)	250	±3	500	±3	360	±5

備考 上面に埋め込むインサートナットは、1号 J I S B 0205 に規定するM10 を標準とする。

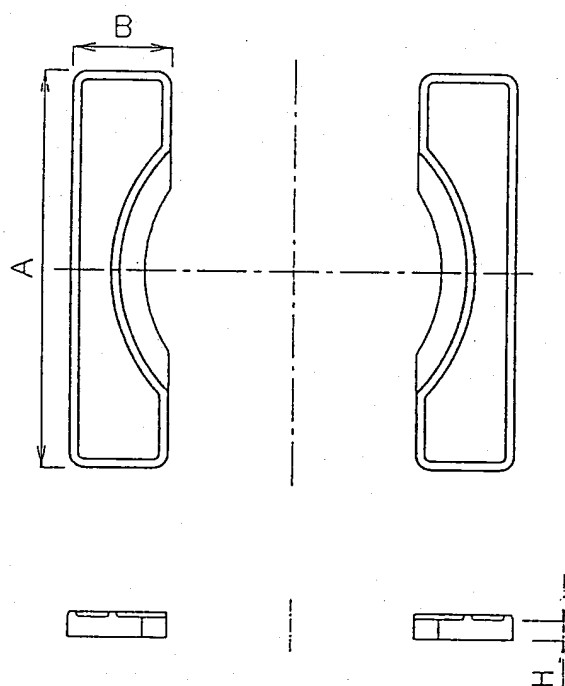
付表 16 分割底版型円形下部壁 (3, 4 号 (CTK)) の主要寸法



単位mm

種 類	部材番号	D		H(参考)	
		寸 法	許容差	寸 法	許容差
3 号	RB50(CTK)	500	±3	210	±5
4 号	RB60(CTK)	600	±4		

付表 17 分割底版型円形底版(3,4号(PTK))の主要寸法



単位mm

種 類	部材記号	A		B		H(最小)	
		寸法	許容差	寸法	許容差	寸法	許容差
3 号	RB50(PTK)	700	±4	200	±3	200	±3
4 号	RB60(PTK)	800					

